

大阪市立南恩加島小学校 令和元年度 校長経営戦略支援予算【**基本配付**】実施報告書
(補足説明資料)

1. 取組内容（1）について

1-1. 取組を実施する必要性

本校では、平成30年度の学力経年調査では、大阪市平均を国語で9ポイント、算数で7ポイント下回っている。課題として、国語科・算数科における、基礎・基本の定着が挙げられる。「授業の内容はよくわかる」と感じる児童は、87%いるものの、基本的な生活習慣が定着しておらず、学習意欲の向上にも課題がみられる。

上記の課題を解決するために、教育振興基本計画における「施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組」の一環として、個に応じたきめ細かな指導や、繰り返し学習することで、わかる授業をめざすとともに、「①単元テストにおける効果検証」を実施する。また、「②タブレット端末を活用したドリル学習」をすることで、プリント等紙ベースでの学習との相乗効果を図る。さらには、「③学びサポーターの活用による個に応じた支援」を実施する。

1-2. 取組を実施することにより期待できる効果

「タブレット端末や学びサポーターの活用により、児童の学習意欲を向上させ、単元テストの正答率の向上につなげる」ことが期待できる。また、「テスト作成にかかる負担軽減により、児童の状況分析を行い、分析結果に応じた重点的指導を行うことで、単元テストの正答率の底上げにつなげる」ことが期待できる。

1-3. 具体的な実施内容

具体的な実施内容としては、下記のとおりである。

①単元テストの活用

具体的には、国語科・算数科の単元終了時に、購入したテストを実施し、分析と事後指導、授業改善につなげる。

②タブレットドリルの活用

具体的には、タブレット端末は学校に40台しかないため、学年ごとに期間を区切って配当し、すき間時間や、授業の終末に活用し、反復復習をする。

③学びサポーターの活用

具体的には、国語科・算数科で、配慮を要する児童を中心に、個に応じた支援を実施する。

1－4. 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

- ・取組に対する達成状況：A

- ・評価理由：

取組内容①においては、テストの分析と事後指導、授業改善により、正答率75%以上という成果をあげることができた。

取組内容②においては、効率的な活用により、基礎・基本定着に向けた反復練習ができるとともに、意欲の向上という成果をあげることができた。

取組内容③においては、個に応じた支援により、児童の自信や達成感につなげることができた。

以上の成果から、A評価とした。

2. 取組内容（2）について

2－1. 取組を実施する必要性

取組内容（1）と関連し、本校児童の学習意欲の向上に向け、体験的な学習の場面を多く設定することが必要である。

そこで、教育振興基本計画における「施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組」の一環として、各学年で、「①子どもが生き生きと興味をもって取り組めるよう、体験活動の充実」を図る。

2－2. 取組を実施することにより期待できる効果

「児童の体験活動の充実により、学ぶ楽しさを味わわせ、学習意欲が向上する」ことが期待できる。

2－3. 具体的な実施内容

具体的な実施内容としては、下記のとおりである。

①体験活動の充実

具体的には、各学年で、教科学習と関連させた効果的な体験活動を実施する。。

2－4. 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

- ・取組に対する達成状況：A

- ・評価理由：

取組内容①においては、各学年で、多様な体験学習を実施することにより、児童がいきいきと興味をもって学習に取り組み、まとめたり、発表したりする活動につなげた。

以上の成果から、A評価とした。

3. 総論

3-1. 年度目標の達成状況、総評

本校では、上記の取組を実施することにより、「学力経年調査の国語科・算数科において、市平均との差を前年度より縮める」という年度目標に対して、「当該の4～6年において、ひと学年の国語を除き、他はすべて目標を達成」した。また、「国語科・算数科の単元テストの正答率を75%以上にする」という年度目標に対して、「全学年で目標を達成する」ことができた。

以上の結果から、年度目標に対する達成状況を「A」評価とした。

これは、児童の実態をふまえて検討した取組を計画的に実施したことによる成果であるといえる。

3-2. 学校協議会における意見

- ・国語科・算数科の単元テストでは、概ね目標を上回った。今後も児童の力を伸ばせるよう、「わかる・楽しい授業づくり」をめざしてもらいたい。
- ・社会見学や出前授業等の体験で、本物にふれ、興味関心をもって学ぶことは、児童の学習意欲の向上につながるため、今後も計画的に実施してもらいたい。
- ・学力向上のためには、家庭における基本的な生活習慣の定着も不可欠である。保護者との連携をいっそう進めてももらいたい。